

CAMPUS HEALTH

2022.7

59 (2)

特集：イントラ～ポスト・コロナ時代の
キャンパスヘルス



Japan University Health Association

目 次

巻頭言

巻頭言	五味 慎太郎	1
-----	--------	---

特集 《イントラ～ポスト・コロナ時代のキャンパスヘルス》

対面授業に不安を抱える学生への教育的配慮 —コロナ新時代における大阪大学の取り組み—	長 友 泉	3
新型コロナウイルス感染症への取り組みと影響	川 畑 秀 伸ほか	9
総合大学における職域接種（大学拠点接種）	潤 間 励 子ほか	15
市内連携大学を含めた新型コロナワクチン職域接種の実施	佐 藤 研	21
オンラインで変わるキャンパスライフと学生支援	太 田 裕 一	26

原著論文

大学生同士の支えあいを広げるピアエデュケーションの効果	大 島 紀 人ほか	32
困り感を抱える学生に対しての集団を対象とした学生保健医療サービスに関する文献検討	西 谷 崇ほか	38
女子大学生における女性のヘルスリテラシーと低用量ピルに対する意識調査	菊 池 華 代ほか	44
大学生の自殺事例の分析 —信州大学と他大学との比較—	山 崎 勇ほか	50
酒席での多量飲酒により健康問題が生じた大学生の飲酒に対する認識の変化	後 上 亜友美ほか	57
コロナ禍の学生支援における利用者動向 —Web 相談受付フォーム導入後1年経過時の報告—	緒 方 敦 子ほか	63
障害学生に有効な支援の検討 —支援学生へのアンケート調査と卒業・退学学生の分析—	早 坂 浩 志ほか	70

機関誌編集委員会からのお知らせ		77
-----------------	--	----

あとがき		78
------	--	----

巻頭言

青山学院大学保健管理センター所長 五味 慎太郎

私が大学保健管理センターの業務に携わって、早いもので25年以上になります。この間いろいろなことがありましたが、全国大学保健管理協会では機関誌編集委員会委員・ウェブ情報委員会委員としてお手伝いをさせていただきました。当初はまだ国際連携委員会・研究倫理委員会・ヘルシーキャンパス運営委員会は設置されていませんでした。機関誌編集委員会では今では考えられませんが、機関誌の原著論文の投稿はとて少なくて、苦労したことを覚えています。最近では、投稿数は飛躍的に増え、論文の内容も著しく素晴らしものになっており、本協会の充実ぶりがうかがえます。また、ウェブ情報委員会委員を務めてまいりましたが、25年前は健診やデータ解析にパソコンをいかに使うかが主なテーマでした。その後、ICTの進歩は著しく、個人宅でもインターネット環境が当たり前ものとなり、ウェブ情報委員会の役割も大きく変わりました。最近では、協会Webサイトに電子メール双方向システムなどを設置し、情報発信、共有などに寄与する協会活動は格段の進歩を遂げました。

また、国立大学の独法化の前でしたので、多くの国立大学の保健管理センターでは教職員は健康管理の対象ではなかったため、全国大学保健管理研究集会でも研究発表の内容はもっぱら学生を対象としたものでした。現在では産業医としても保健管理センターの先生方が活躍するようになり、教職員を対象とした産業保健も研究集会の大きなテーマとなり、シンポジウムや研究発表も盛んにおこなわれています。

2020年からはCovid-19パンデミックのため、協会の皆様におかれましては大変なご苦労をされたことと存じます。わたくし共の大学でも緊急事態宣言が発出されたため、キャンパス入構制限が実施されました。学生・教職員との連絡方法も決まらないまま、実質的にキャンパス封鎖に近い状態になり、関連部署と調整しながら保健管理センターの対応体制を整えるのに非常に苦労しました。希望に満ちた大学生活を楽しみにしていた新入生がキャンパスに来る機会を奪われ、友人と触れ合うこともできず、つらい時期を過ごさなくてはならなかったことは本当に不幸でした。しかし一方で、大学の授業や会議もオンラインで行われることが当たり前になり、ICTを利用した様々の活動は世界中で一気に進みました。学生にとっても教育における選択肢が増え、教育効果も上がっている部分があることも明らかです。全国大学保健管理協会においても研究集会や地方部会はこの2年はオンラインで行われていますが、本協会でも情報発信・共有に留まらず、日常の健康管理業務・診療・研修・共同研究にもいろいろ応用できることが次から次へと出てくるでしょう。

また、TOKYO2020オリンピック・パラリンピックは1年延期された上に、無観客で行われるという異常事態になりました。日本選手が大活躍しましたが、一方多様性を認め、いかに受け入れていくかということも問われる機会となりました。大学においても性的マイノリティーや発達障がいの問題など対応しなければならないことが多々ありますが、多様な学生・教職員が楽しいキャンパス生活を送るためにはさらなる努力が必要でしょう。

安心安全なキャンパス生活・ヘルシーキャンパスを実現するために今後ますます保健管理センターの業務は重要になり、皆さまのご苦労は増えることとなると思いますが、全国大学保健管理協会の更なるご発展と加盟大学の皆様のご健勝を心からお祈りし、巻頭言とさせていただきます。